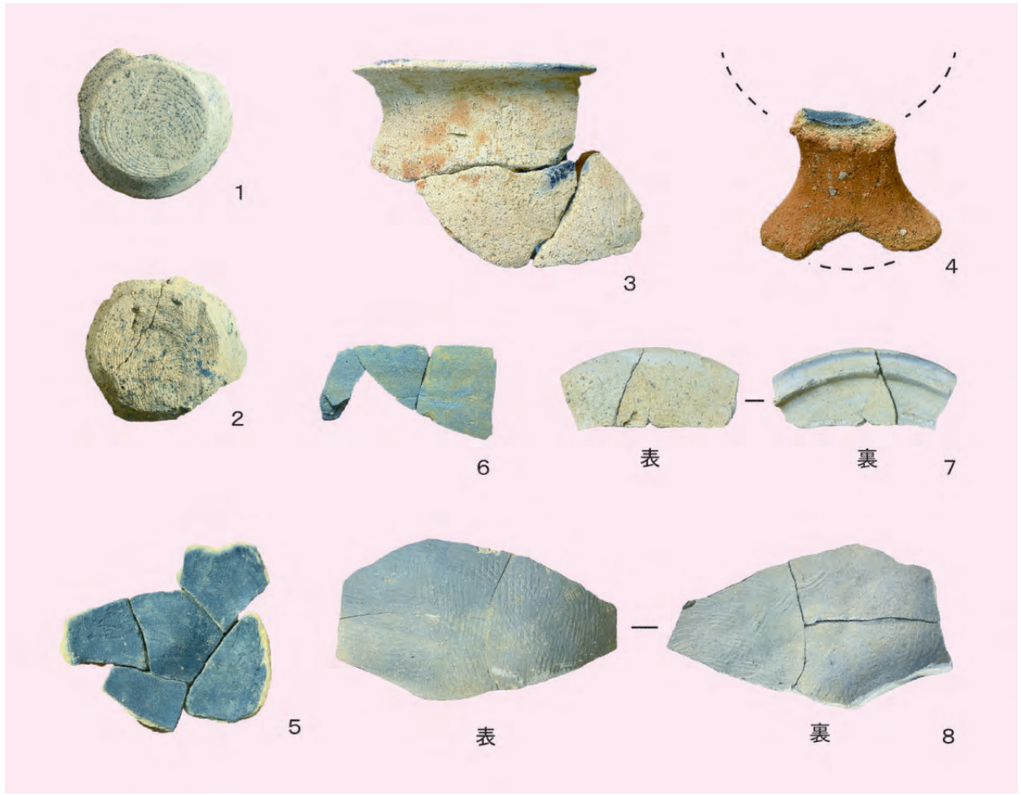
3　出土遺物

遺物は古墳時代～平安時代の土師器・須恵器・鉄製品・鉄滓などが出土しました。1・2 は当時の食器である土師器椀の底部です。製作時についた回転糸切痕がみられます。3 は煮炊きに用いる土師器甕の口縁部です。4 は飲食や祭祀に用いる土師器高杯で、足が付いているのが特徴です。5 は食器である黒色土器椀で、土師器の内面を燻したりして加工を施したものです。水漏れしない効果があったと考えられています。6 は食器である須恵器杯の口縁部です。7 は須恵器杯の蓋で、返りがあることから 7 世紀後半に位置づけられます。8 は貯蔵具である須恵器甕の胴部で、表裏にある模様は製作時についた道具の跡です。



1．土師器 椀（平安時代）
2．土師器 椀（平安時代）
3．土師器 甕（飛鳥～奈良時代）
4．土師器 高杯（古墳時代）
5．黒色土器 椀（平安時代）
6．須恵器 杯（飛鳥時代）
7．須恵器 杯蓋（飛鳥時代）
8．須恵器 甕（飛鳥～奈良時代）



奈良・平安時代（約 1200 年前）の土器

（新潟県教育委員会 1989『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 53 集　山三賀Ⅱ遺跡』より一部改変）

No

南魚沼市六日町藤塚遺跡第 12 次調査現地説明会資料

令和８年 11 月７日（土）

公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

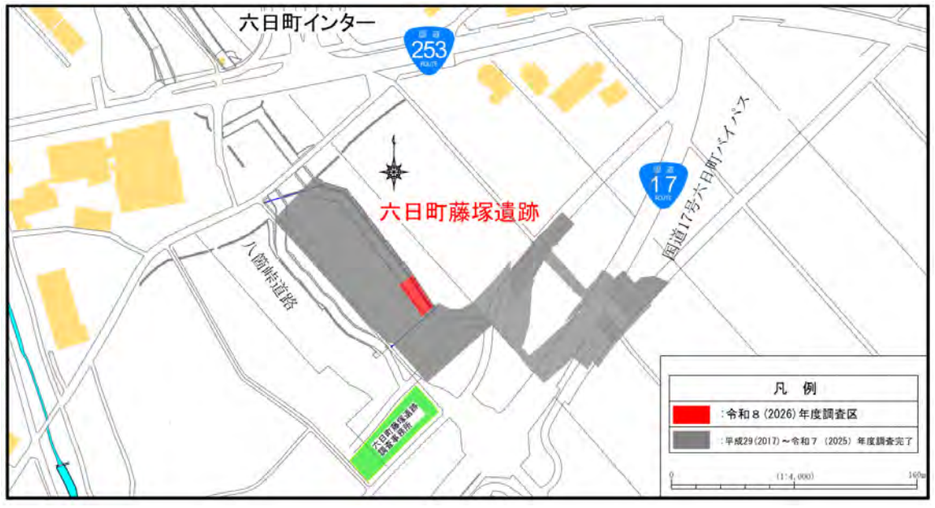
1　遺跡の概要

六日町藤塚遺跡は国道 17 号六日町バイパス及び国道 253 号八箇峠道路建設事業に伴い、発掘調査を実施しています。遺跡は、魚沼丘陵の東側、庄之又川によって形成された標高 180ｍの扇状地上に立地しています。六日町藤塚遺跡の発掘調査は平成 29 年からはじまり、今回が９回目の調査になります。これまでの調査では、古墳時代中期後半から後期前半（５世紀後半から６世紀前半）の集落で祭祀あるいは廃棄に伴う土器集積遺構が見つかっています。古代では７世紀後半の飛鳥時代から営まれた集落を確認しています。

令和８年度は下図の赤色範囲、256 ㎡（当初）の調査を実施しています。遺構面は古墳時代後期（６世紀前半）、飛鳥時代から奈良時代（７世紀後半から８世紀初頭）、平安時代があり、現在は飛鳥時代から奈良時代の遺構を調査しています。



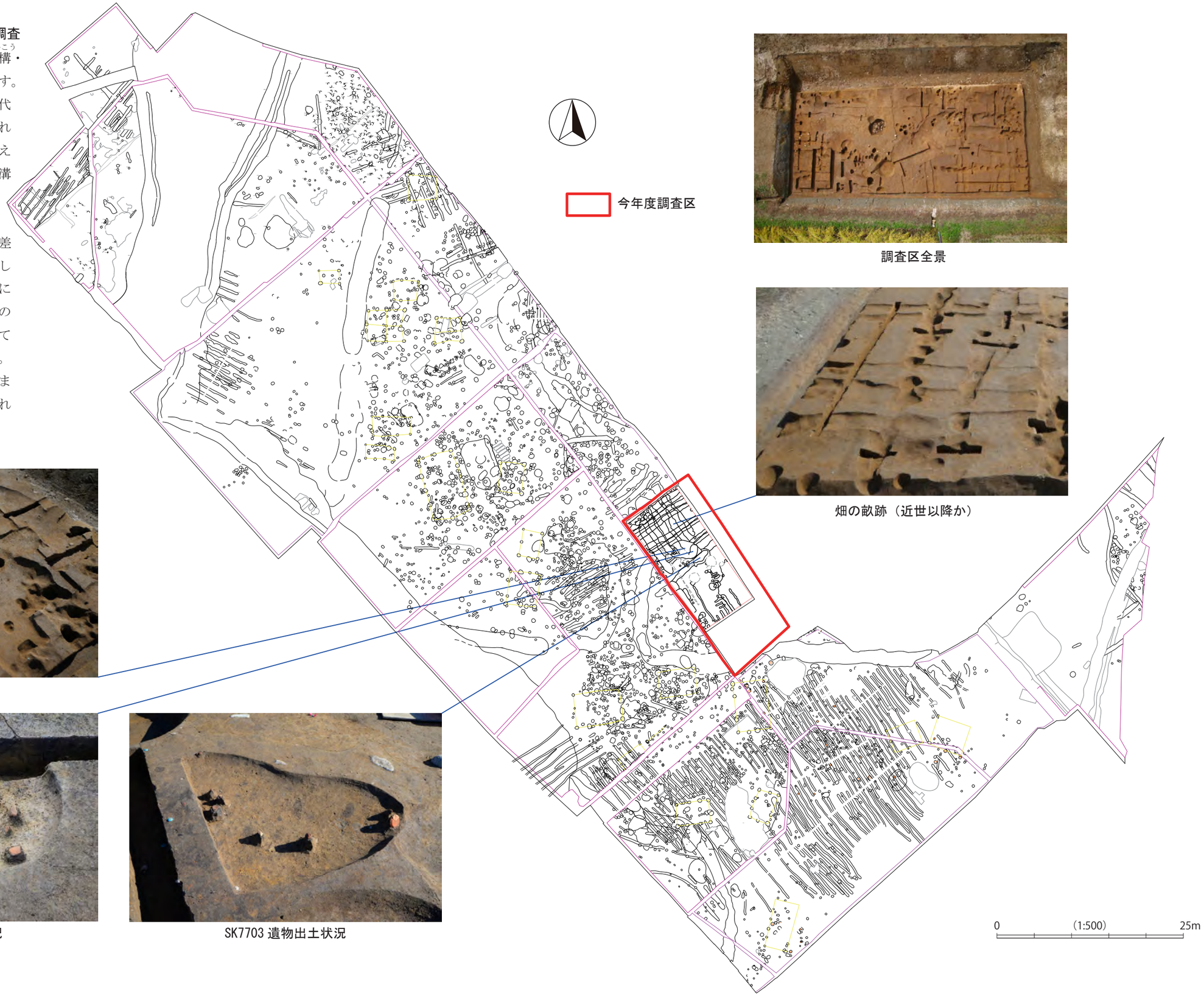
調査区近景（上空北東から）



六日町藤塚遺跡の発掘調査位置

2　飛鳥時代から奈良時代の調査

今年度の上層調査では、竪穴状遺構（たてあなじょういこう）・溝（みぞ）・土坑（どこう）・ピットがみつかっています。特に土坑の SK7702 と SK7703 では古代の遺物を含（ふく）んでおり、それらに切られた竪穴状遺構はさらに古い遺構と考えられます。最も面積を占める遺構は溝です。これらは調査区北西側の幅広な溝と南東側の細い溝に大きく分けることができます。ただし幅に差はあるものの、どちらも方向は共通し、調査区の長軸に沿ったものとそれに直交するものがあります。これまでの調査でも軸の同じ溝が複数検出されており、畑の畝跡（うねあと）と考えられています。時期を示す明確な遺物は出土していませんが、近世以降の可能性が考えられます。



調査区全景

畑の畝跡（近世以降か）


SX7705 完掘


SK7702 遺物出土状況

SK7703 遺物出土状況